

介護研究

テーマ 文献 計画
データ収集・分析 発表



鈴木俊文

静岡県立大学短期大学部
社会福祉学科 准教授

介護老人保健施設、認知症高齢者グループホームにて実務経験を重ねた後、日本福祉大学高浜専門学校専任教員などを経て現職。認知症ケア、ケアマネジメント、スーパービジョン、災害福祉、地域福祉活動などの現場研究を力かに、教育・研究・研修活動を展開。主な著書に『社会福祉・介護福祉の質的研究法』（共著、中央法規出版）、『災害時の介護』（共著、みらい）など。

やってみよう！ 文献検索・文献検討

本連載のねらいと位置づけ

本連載は全6回を通して、介護研究の考え方から研究のプロセス、具体的な分析方法など、研究活動の一連の過程を解説し、読者の皆さん自身が介護研究を始めるきっかけを得ることを目的にしています。

前回（本誌Vol.14, No.1）は、研究テーマの設定についてお話ししました。研究テーマは最初から簡単に設定できるものではなく、①研究テーマに必要な研究の種を見つけること（自覚すること）が出発点であり、②こうした研究の種は皆さんの経験の中に存在していること、そして、③それらについてチームでさまざまな対話を繰り返し広げることによって「研究テーマ」として具体化されていくことをお話ししました。

第3回となる今回は、介護研究における文献検索・文献検討の基本的な考え方や方法について概説します。文献の検索や検討は、「研究の種」の発見や研究テーマの設定にも深く結びついた活動です。また、次回予定している「研究計画書の作成」にも大きく影響を与える内容でもあります。このことから、「文献検索・文献検討」は、研究の種を見つける手段だけでなく、研究プロセス全体を通して、段階的に継続的に行われるものであることが特徴です。

図1は、研究プロセスにおけるさまざまな「文献検索・文献検討」の位置づけについて概略的に表したものです。これはあくまで一例にすぎませんが、介護研究を進めていくためには、研究プロセスにおける文献検索・文献検討の位置づけを、研究の深まりに応じた「目的別」ととらえることが重要です。これらの意義を理解するために、今回もコラムを交えてその実際についてお話ししていきたいと思えます。

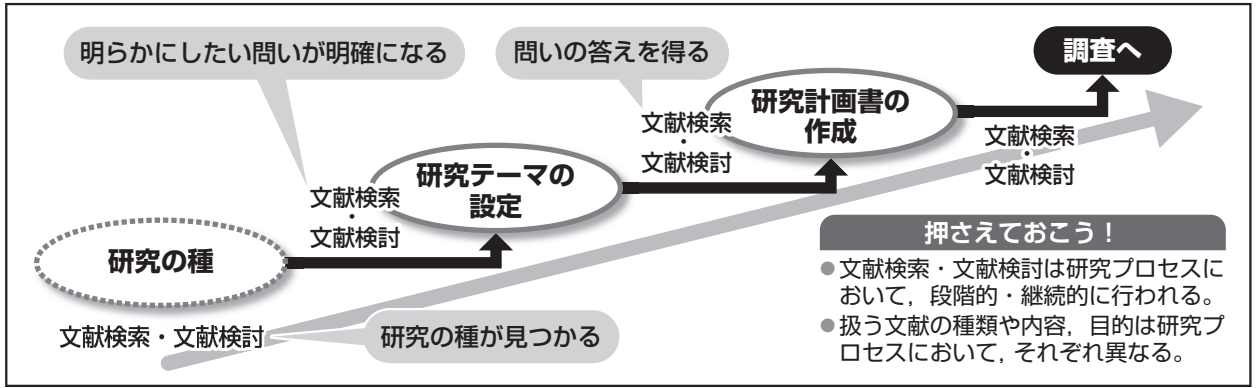
文献検索・文献検討の目的

■研究プロセスにおける文献検索・文献検討の「段階」を押さえよう！

先述したとおり、文献検索や文献検討は研究プロセスを通じて、段階的かつ継続的に行うことが重要です。ここで言う段階的とは、研究テーマの設定から研究を計画・実施し、得られた結果を整理し考察するという一連の研究プロセスの段階を指しています。

前回での理解を通して、すでに「研究テーマが設定できた」という読者の声を数多くお聞きしました。研究テーマを具体的に言葉にできることは、自分自身だけでなく、チームにおいても大変大きな手応えとして実感されているようです。「自分たちの疑問はこれなんだ！」「ここを明らかにしたいん

図1 研究プロセスにおける文献検索・検索の位置づけ(例)



だ！」という自覚や問題意識の共有は、研究が一步前進したことを意味しますので、すぐさま、その疑問の答えを得ようと、研究に取りかかりたいという動機もより強まることでしょう。

しかし、ここで自分たちで答えを得ようとただちに何らかの調査を進めることは得策ではありません。まずは自分たちが取り組みたいこと、明らかにしたいことを、先人たちが行っていないかをよく調べ、自分たちがとらえた疑問の答えを見つけるための作業を進めることが必要です。これが、研究プロセスにおける一つの文献検索・文献検討の「段階」になります。

■文献検索・文献検討の重要性を理解しよう！

介護に限らず、皆さんは最近どのような調べ物をしましたか？ それはどのような方法で行いましたか？ パソコン操作がうまくできず、参考書を求めて書店に走った方、夕食で新しいメニューに挑戦するためにインターネットサイトを活用して情報を得た方など、日常生活の上でも困り事などから芽生える疑問点はさまざまあります。それを解決するために、皆さんは本やインターネットなどから先人の知恵を借りて情報を得ていることと思います。

介護研究における文献検索・文献検討の

表1 研究プロセスにおけるさまざまな文献検索・文献検討

時期	研究プロセス	文献検索・文献検討の目的例
序盤	研究テーマの検討・設定	<ul style="list-style-type: none"> 研究の種を見つける 研究テーマの具体化 用語の定義を確認する
序盤	研究計画の検討・研究計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 先人の取り組みから疑問点の答えを得る 類似する研究の動向を知る 明らかになっていること・なっていないことを整理する ほかの研究と自分たちの研究との違いやつながりを知る 取り組もうとする研究の実践上・学問上の意義を考える
中盤	データ収集・データ分析	<ul style="list-style-type: none"> どのような調査方法が行われているかを知る どのような調査が有効かを考える
終盤	分析結果に基づく考察	<ul style="list-style-type: none"> 先人の研究結果を確認・比較する 先人の知見を踏まえて批判・同意・提案をする 研究の限界と今後の課題を考える

目的や方法もこれによく似ており、こうした関連する先人の知見（過去の研究）を先行研究と呼び、文献検索・文献検討の材料にします。このような先行研究を踏まえずに取り組んだ研究は、すでに明らかになっていることを繰り返したような研究や、深まりのない研究活動にもなりかねません。

介護研究を進める上での文献検索・文献検討の段階の一例を、表1に示しました。研究プロセスにおけるさまざまな目的の違いに注目していただくことで、文献検索・文献検討が研究活動の一つとして、とても大きな役割を担っていることがお分かりい

表2 介護研究を扱う学会例

組織名称	誌名
日本介護福祉学会	介護福祉学
日本社会福祉学会	社会福祉学
日本介護福祉士会 (日本介護学会)	介護福祉士
日本介護福祉士養成施設協会 (日本介護福祉教育学会)	介護福祉教育
日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会誌 認知症ケア事例ジャーナル

表3 学術論文を扱ったインターネットサイト

サイト名	内容
CiNii Articles (サイニイ・ アティクルズ)	論文、図書、雑誌や博士論文などの学術情報の検索ができるデータベースサービス。一部有料。
Google Scholar (グーグル・スカラー)	Googleが提供する学術用途での検索サイト。ネット上の論文、学術誌、出版物などの情報をまとめて表示できる。
J-STAGE (ジェイ・ステージ)	国立研究開発法人科学技術振興機構(JSTS)が構築した科学技術情報発信・流通総合システム。国内学協会が発行している学会誌、論文誌などの情報をまとめて検索できる。
医中誌Web	特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会が作成する契約性の国内医学論文情報のインターネット検索サービス。医療や看護系が中心。

ただけののではないのでしょうか。特に、研究プロセスの序盤で行われる「研究テーマの検討・設定」から、「研究計画の検討・研究計画書の作成」への移行期には、文献検索・文献検討によって整理すべき事柄が多くありますので、ここでの成果が研究テーマの妥当性や研究プロセスの枠組みを具体化するなど、研究の質を大きく左右させます。そのため、この段階で行われる文献検索・文献検討が特に重要になることは明らかです。

文献検索・文献検討で扱う「文献」を理解しよう

まず、研究で扱う文献とは何を指すのかを理解しておく必要があります。「文献」を

辞書で引くと、「筆録されたもの」や「書物」「文書」などと示したものが目につきます。先行研究として蓄積されている書物や文書には、学会誌に掲載されている論文が代表的です。

介護研究の発表が盛んに行われている学会を**表2**に整理しました。これらの学会は、研究発表大会を定期的に行い、学術論文誌も定期的に刊行しています。そのほかにも、大学などの研究機関が発行している「研究紀要」や専門書としての図書、雑誌、教科書なども文献に含まれます。

どう進める？ 文献検索・文献検討

■まずは大学の附属図書館を利用することがお勧め！

文献検索・文献検討の目的や内容を理解できたところで、実際の進め方について話を進めましょう。文献をどこでどのように検索するか(できるか)という点では、まずは図書館(特に大学の附属図書館)に行ってみることをお勧めします。

大学の附属図書館は、大学生でなければ利用できないと思っている方が多いと思いますが、図書館利用を学外者にまで拡大している大学機関は実に数多くあります(詳しくは、近隣の大学附属図書館の利用案内を確認してください)。大学の附属図書館は研究機関の図書館ですので、学会誌などの貴重な学術論文を数多く蔵書しています。特に、研究初学者の方はこうした論文誌を目にする機会にも慣れていないと思いますので、まずは実際に論文を手にとって読んでみるのが大切です。

そのほか、近年ではインターネットの普及に伴い、文献検索のためのインターネットサイトも随分と充実してきました(表

3)。これらのサイトから、検索したい論文名や研究テーマに関連したキーワード(例: ケアマネジメント, アセスメントなど)を入力し、文献の検索をすることが可能です。ただし、キーワードに何をを用いるかによって検索される先行研究が変化しますので注意が必要です。

例えば、「介護職員が食事介助の時にどのような観察から、どのようなアセスメントをしているのかを探る研究に組みたい」と考えたとします。この際は、どのようなキーワードを用いて先行研究を検討するとよいでしょうか。「食事」や「食事介助」では、膨大な量の先行研究がヒットするでしょう。このような場合は「食事介助」「アセスメント」という2つのキーワードを入れることが効果的です。しかし、「食

事介助」だけでなく「咀嚼」や「嚥下」というキーワードを活用したり、「アセスメント」を「観察」というキーワードに変えたりすることによって、また別の論文が検索される場合も少なくありません。

研究初学者の皆さんには、どのようなキーワードを用いるかをよく考えると共に、類似するいくつかの表現で検索し直すことをお勧めします。また、こうした検索には論文のタイトルが大きく関連しますので、自分自身が取り組む研究テーマの名称(活用する用語)も、これらの先行研究の検索・検討結果から見直すことが大切です。

以上を踏まえ、実際にどのように文献検索・検討を行うことができるのか、その進め方の実際について、現場実践者のコラムから考えてみることにしましょう。



意外に簡単! 同じ思いの人と出会える「文献検索」

曾根 允

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 静岡県社会福祉人材センター 研修課

私は現在、認知症介護実践研修や福祉職員生涯研修課程のほか、さまざまな自主研修を開催する「福祉研修事務局」を担当しています。研修を単に企画・開催するだけではなく、より効果的に研修を受けていただくためには、何が必要なのか、どのような仕組みが必要なのか、鈴木俊文氏と共同研究で模索し続けています。それが私の実践・研究における問題意識とも言えます。

このコラムでは、「文献検索」は意外に簡単であり無料でもできることと、「文献検索」は同じ想いの人との出会いであること、この2点について紹介したいと思います。

■誰でもできる文献検索

「『文献検索』って難しそう…。大学や研究機関に所属している人が専用システムを使わないとできないんでしょ?」、そう思っ

ている人も多いのではないのでしょうか?

かく言う私も同じ勘違いをしていました。私自身、学生時代には自学の附属図書館のシステムと蔵書を活用して「文献検索」をしていました。母校から離れた静岡県に就職したこともあり、卒業後は「文献検索」はできないものと思い込んでいました。しかし、鈴木氏が述べていたように、一般開放されている大学附属図書館も多いですし、何よりも文明の利器・インターネットさえあれば、「文献検索」は誰でもできるのです!

■文献検索をやってみた

→新たなキーワードを発見した

今回は、試しに私の問題意識「研修効果」「福祉」の2語をキーワードに、「CiNii」で論文検索してみました。すると、10件

ヒットし、そのうち8件は論文をインターネットからダウンロードし、読むことができました。この検索では、すでに介護福祉士、介護支援専門員、保健師といったさまざまな職種で先行研究が行われていること、さまざまな研究手法や評価ツールがあることを学びました。

「文献検索」では、自分の研究の「キーワード」をとらえる（表現する）ことが重要です。自分の問題意識について、ほかの研究者はそれをどのようにキーワード化して表現しているのかを知り検索しなければ、うまくヒットしません。多くの文献に触れて知識と視野を広げ、自分の問題意識の言語化能力を高める必要があります。その過程で、自分の研究に最も適切なキーワードを発見することもあります。

私の場合、どうすれば「研修効果」が促進されるのかを何度も「文献検索」し、多くの文献に触れる中で、自分の問題意識がヒットしやすいキーワードに気づきました。また、その過程で新しいキーワードも得ました。それは、「動機づけ」というキーワードです。この発見により、動機づけは検索用キーワードの域を越えて、私にとって新たな研究テーマとなっています。その意味

では、「文献検索」を繰り返していく行動そのものが、研究を深める活動でもあると言えます。

■同じ思いの人と出会った時の喜び

自分の問題意識について「文献検索」をすることによる最大の喜びは、同じ思いを持つ人に出会えることです。自分の問題意識に対して、“ドストライク”に合致する文章を発見した時の喜びは計り知れません。

私の場合は前述のように、「動機づけ」と「研修効果」についての文献を目にした時です。自分の中でモヤモヤしていたものがきちんと文章に整理され、活字になっているのです。自分は一人ではなかった、自分の問題意識は自分だけの突拍子もない考えではないということの証明でもあります。執筆者に会いに行きたくなる衝動に駆られます。また、バイブル的な文献に出合ったら、引用（参考）文献をチェックしましょう。さらなる発見が待っているかもしれません。

「文献検索」は、そんな喜びとの出会いが簡単にできる、とても素敵な方法です。難しいと思って敬遠している方も、ぜひやってみましょう！

おわりに

いかがでしたでしょうか？ コラムは、文献検索・文献検討を通して、新たに自分が研究を進める上でのキーワードを発見し、研究テーマの具体化や研究の方向性を見いだしていることがよく分かる内容です。また、同じ思いを持った人に出会えるという曾根氏の言葉は実に魅力的です。文献検索・文献検討はそれ自体が研究として位置づけられるほど、深みを持っていることもお分かりいただけたのではないのでしょうか。

さあ、皆さんも文献検索・文献検討をできることから始めてみてください。

今回は、研究計画の考え方、作成についてお話をしたいと思います。

参考文献

- 1) 大木秀一：文献レビューのきほん—看護研究・看護実践の質を高める、医歯薬出版、2013。
- 2) 前田樹海：はじめての看護研究、ナツメ社、2015。
- 3) 田中千枝子編集代表、日本福祉大学大学院質的研究会編：社会福祉・介護福祉の質的研究法—実践者のための現場研究、中央法規出版、2013。
- 4) 矢原隆行：はじめての介護研究マニュアル—アイデアから研究発表まで、保育社、2002。